

千葉市感染症発生動向調査情報

2024年 第50週 (12/9-12/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	50週	49週	48週	47週	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	18	
	眼科	5	5	5	5	
	*インフル/COVID	28	28	28	28	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
	基幹	1	1	1	1	

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/9-12/15	12/2-12/8	11/25-12/1	11/18-11/24	12/2-12/8
			50週	49週	48週	47週	49週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	0	0	19
	咽頭結膜熱		1	1	0	0	24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	31	44	37	26	426
	感染性胃腸炎	○	104	83	54	58	455
	水痘		3	4	8	3	33
	手足口病	★↓↓↓	36	59	80	113	332
	伝染性紅斑	↓↓↓	11	29	17	16	281
	突発性発しん		4	3	2	3	19
	ヘルパンギーナ		0	1	2	2	4
	流行性耳下腺炎		0	0	1	1	11
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★◎	382	217	137	29	2,686
	新型コロナウイルス感染症	○	44	36	42	16	635
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	3	2	1	25
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	1	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎	↓	3	4	2	1	20
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 4 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	20歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	60歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	60歳代	病原体の検出等

・第50週は、結核2例(151)、腸管出血性大腸菌感染症1例(25)、梅毒1例(70)の発生届があった。

※ ()内は2024年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第50週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.72となった。過去10年の同時期と比べると少なめで、年齢階級別の報告数は10-14歳が最も多く10歳未満では5歳が多かった。区別では、若葉区(4.00)からの報告が最多で5歳、8歳及び10-14歳の報告が多かった。

<感染性胃腸炎>

前週よりやや増加し5.78となった。過去10年の同時期と比べると少なく、年齢階級別の報告数は2歳が最多。区別では、若葉区(15.50)からの報告が最多で10-14歳が最も多く、10歳未満では1歳の報告が多かった。

<手足口病>

前週より減少し2.00となり、流行発生警報終息基準値(2.0)と並んだ。過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は5歳が最多。区別では若葉区(4.50)が最多で5歳の報告が最も多かった。他に基準値以上だったのは中央区(2.67)及び緑区(2.33)。

<インフルエンザ>

前週より増加し13.64となり、流行発生注意報基準値(10.0)を上回った。過去10年の同時期と比べると多く、年齢階級別の報告数は10-14歳が最多で、10歳未満では9歳が多かった。区別では、花見川区以外が流行発生注意報基準値を上回り、若葉区(17.00)及び緑区(17.00)が最多で、両区とも10-14歳が最多で、10歳未満は若葉区では7歳、緑区では9歳の報告が多かった。

<新型コロナウイルス感染症>

前週よりやや増加し1.57となった。年齢階級別の報告数は40-49歳が最多。区別では、緑区(2.50)からの報告が最多で10-14歳、40-49歳及び50-59歳の報告が多かった。

<マイコプラズマ肺炎>

前週よりやや減少し3.00となった。第40週から連続して報告がある。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2024.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2024.pdf

■ トピック ■

<インフルエンザ> <新型コロナウイルス感染症(COVID-19)>

インフルエンザの全国の定点当たり報告数は、第43週以降連続して増加しており、第49週は9.03となり過去10年の同時期と比べると2023年(33.72)、2019年(9.52)に次いで多くなっています。都道府県別では、福岡県(20.30)が最も多く、次いで大分県(13.40)、千葉県(13.20)の順となっています。

千葉市では、インフルエンザは第47週以降増加し、第50週は13.64となり流行発生注意報基準値(10.0)を上回りました(図1)。

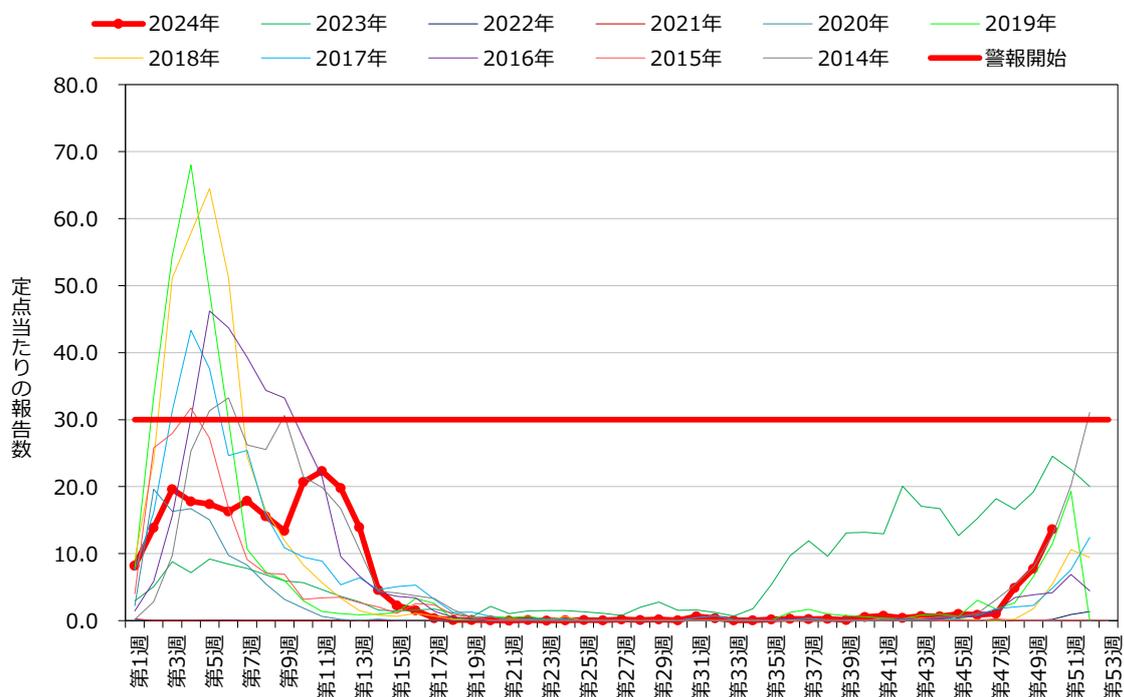


図1 年別・定点当たりの報告数(インフルエンザ)

新型コロナウイルス感染症の全国の第49週の定点当たり報告数は3.07であり、昨年の同時期(3.52)と比べると少なくなっていますが、第45週以降増加傾向となっています。都道府県別では、秋田県(9.31)が最も多く、次いで北海道(9.27)、岩手県(8.21)となっています。千葉県は3.13で全国レベルとほぼ同等となっています。

千葉市では、新型コロナウイルス感染症の第50週は前週よりやや増加し1.57となりました。前年の同時期(2.32)より少ないものの、前年と同様の動向となっています(図2)。

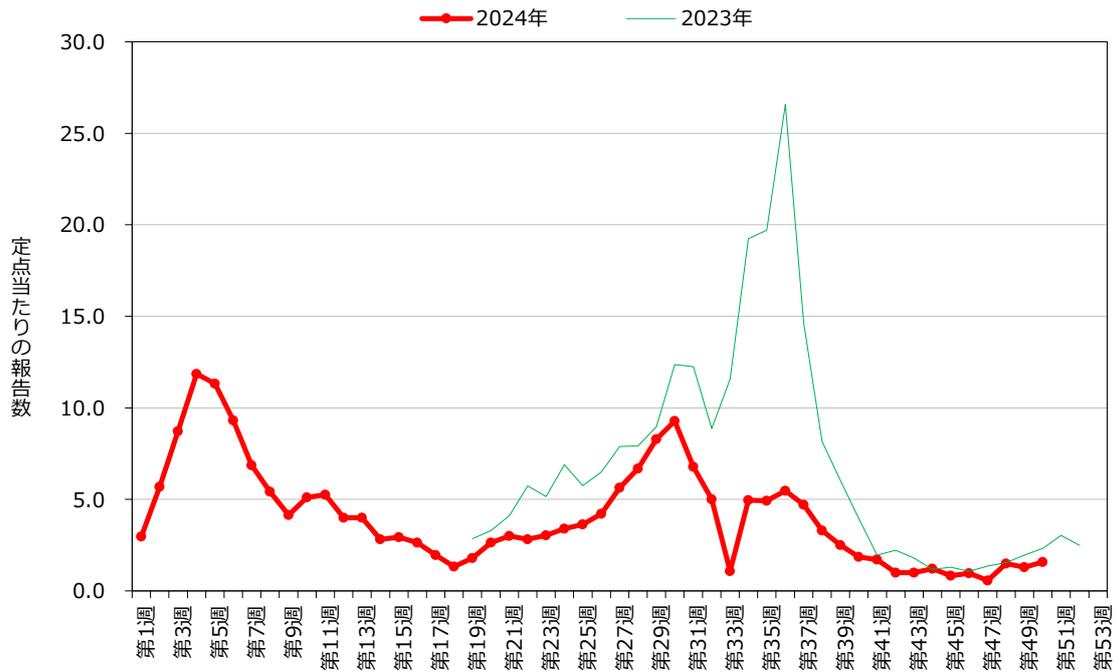


図2 年別・定点当たりの報告数 (新型コロナウイルス感染症)

第47週から第50週までの各週の報告数に占める各年代別の分布は、インフルエンザでは10-19歳が減少する一方で0-9歳が増加しており、各週とも20歳未満がおよそ80%を占めています。新型コロナウイルス感染症では第48週を除き60歳以上がおよそ30%となっています(図3、図4)。

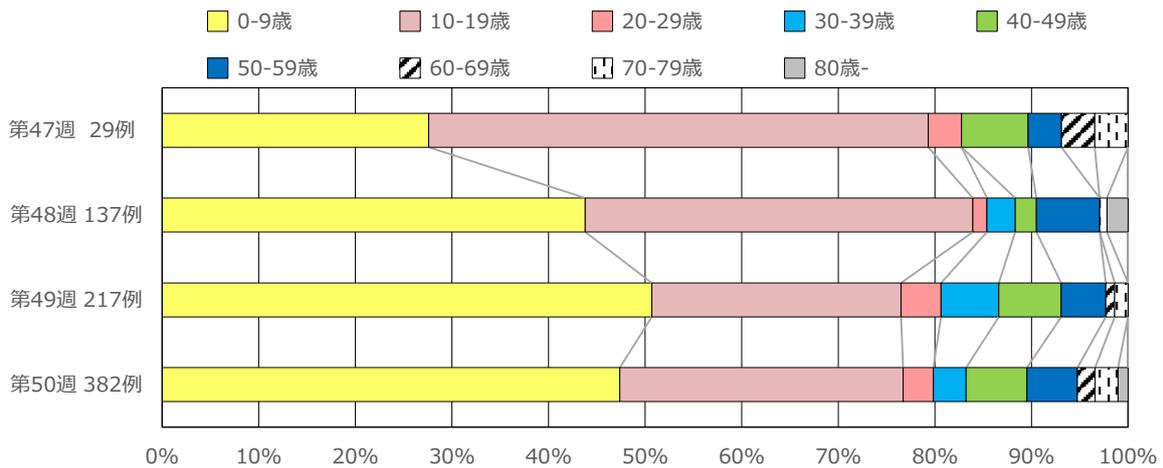


図3 週別の届出数に占める年代別分布 (インフルエンザ 第47週-第50週)

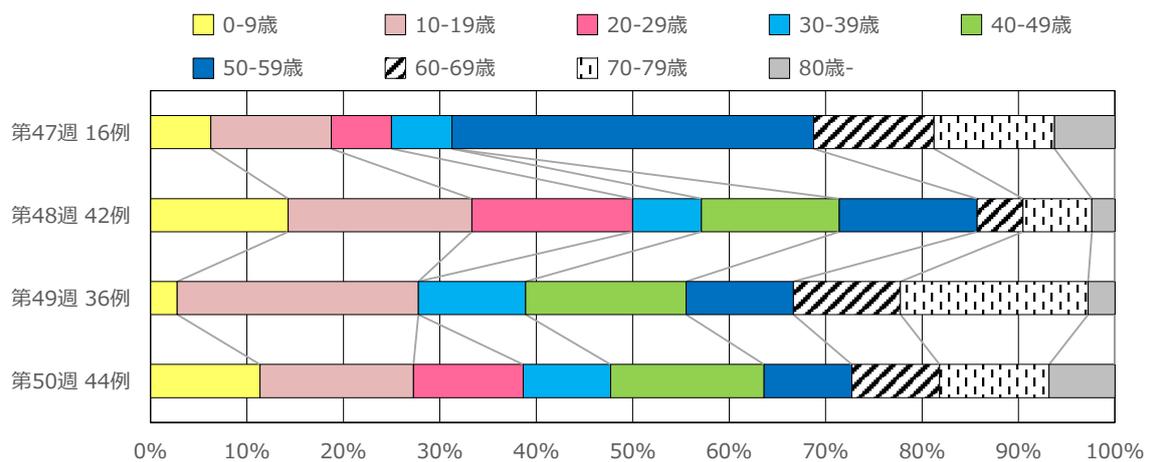


図4 週別の届出数に占める年代別分布 (新型コロナウイルス感染症 第47週-第50週)

インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症への個人の予防策として、マスクの適切な着用を含む咳エチケット、手指衛生の徹底、適切な換気の実施等が推奨されます。また、医療・福祉施設や、年末年始の帰省時にウイルスの持ち込みを防ぐこと、ワクチン(インフルエンザワクチン、新型コロナワクチン)の接種を検討することも重要です。

詳細は、以下のリンク先を参照してください。

<厚生労働省>

【令和6年度】今シーズンのインフルエンザ総合対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2024.html>

令和6年度インフルエンザQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleza/QA2024.html

<千葉市>

「インフルエンザを予防しましょう！」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/kenkokikikanri/influenza_prevention.html

「インフルエンザについて知りたい」

・高齢者インフルエンザ予防接種情報へのリンクが掲載されています。

<https://www.city.chiba.jp/faq/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/978.html>

「新型コロナウイルス感染症に関する基本的な情報」

・新型コロナウイルスワクチン情報へのリンクが掲載されています。

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/kenkokikikanri/covid-19.html>